

山形県立 庄内農業高等学校

3年B組食品製造選択

橋口 実可子 畑山 滉人 伊藤 迅 齋藤 真椰 本間 滉大



地域と私たちの想いをカタチに! ~庄農サイドディッシュの開発と地域施設利用活性化の取り組み~

農シフォンケーキ」を製造・販売することが難しいことがわかりました。そこで、保健所の助言を受け、飲食店として営業可能な商品開発に向けて動き出すこととなり、米粉を利用した「庄農カスタームカスタード」を開発しました。その後、スイーツ製造から収穫時期に左右されない庄内地域の食材で「庄農サイドディッシュ」の開発研究を実施し、地域食材「庄内麩」をハンバーグにした庄農サイドディッシュを完成させ、ふれあいセンターで初めての飲食店営業を行いました。販売促進 PR が功を奏したものの、最終的には利益は出ず赤字経営となりました。これらの活動を通し、私たちは食品衛生と設備の関わり、製造・販売を行うための法知識を得ることができ、庄農サイドディッシュの開発・製造は地域食材の活用促進へ繋がられること、飲食店営業



においては各種経費を念頭に置いた価格設定が必要になること等を学ぶことができました。

3) これからの活動に向けて

今後も食品営業許可や地域食材への理解を深め、庄農サイドディッシュを通してふれあいセンターの利用活性化活動を継続させ、経営手法も学んでいきたいです。



1) テーマについて

私たちの先輩は、お米の活用推進を目的とした米粉シフォンケーキ、「庄農シフォンケーキ」を開発しましたが、本校施設では製造販売をする菓子製造営業許可の条件を満たせず取組みが停滞していました。そこで、地域施設「ふれあいセンター」より施設の利用活性化の話を受け、ふれあいセンターと地域連携協議会、本校が「ふれあいセンター改装計画」の発起人となり「地域施設の利用活性化と商品開発」を目的としてテーマ設定をしました。

2) テーマに基づく活動について

はじめに、食品衛生法に基づく食品営業許可について学習し、ふれあいセンターの設備では「庄

山形県立 東桜学館中学校

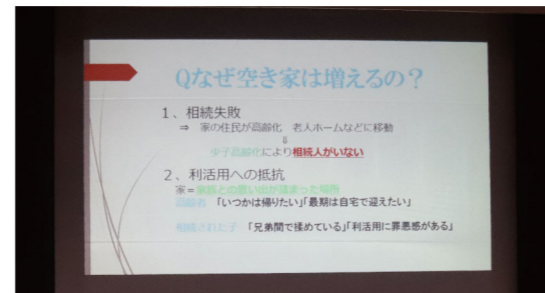
丹野 稜

丹野 稜



「空き家」を「要る家」に!

して活用されたものと定義します。まず、解決案として1年または半年に一度、家の状態や破損状況などを点検するために空き家(empty house)を登録(sign up)する「e-sign」を考えました。しかし、いずれ家は解体されてしまう可能性があるため、家の思い出を形に残すスノードームの製作も考え、試作品も製作しました。次に、空き家の69%が木造であることに着目し、木質チップへの活用を考えました。こちらも試作品を製作し、木質チップはドッグランや木質チッププールへ活用ができ、空き家が憩いの場へ変身できるのではないかと考えました。その他、山形県空き家活用支援協議会や古民家シェアハウス つぶ亭インタビューを行うフィールドワークも行い、空き家問題へ向き合う新たな発見をすることができました。



3) これからの活動に向けて

様々な空き家の増加原因に対し、それぞれの原因に合わせた多様な解決策が必要となります。また、住んでいた家への想いもそれぞれであるため、想いを抱える人々に寄り添い、これからの社会に見合った空き家解決策を考えていきたいです。



1) テーマについて

新聞で「空き家を雪室に改修した」という記事を読み、壁を断熱材で覆うことで雪を残し、野菜の貯蔵に活用したり夏場に雪で遊んだりできるというユニークな計画が進行していることを知りました。そこで、自分なりに空き家について調べ解決策を考えたいと思い、テーマ設定をしました。

2) テーマに基づく活動について

「空き家」を「要る家」にするために、空き家問題に向き合う「HOME GUARDIAN」の起業を考えました。「要る家」とは私が考えた言葉で、概ね1年以上住んでいない家と定義している「空き家」に対し、「要る家」を空き家が人々にとって利用価値があるものと

朝日町立 朝日中学校

第3学年

熊谷 若葉 渡辺 友介 清野 華鈴 長岡 宜秀
長岡 真聖 長岡 優大 菅井 美聡
阿部 将太 堀 文悟 熊谷 心



朝日ふるさと伝承プロジェクト Tradition in ASAHI ~伝統文化の継承~



1) テーマについて

山形県や朝日町に古くから伝わる伝統文化や代々受け継がれている芸能について、地域の方々の力をお借りしながら中学3年生として深く学び、丁寧に受け継ぎたいと考え、テーマ設定をしました。

2) テーマに基づく活動について

継承する文化・芸能は、「山形花笠踊り(尾花沢流派)」と、朝日町の「豊龍神社祭囃子」「送橋神明こぶし太鼓」「ハツ沼大名行列奴振り」「昔語り・民話劇」の5つで、継承した伝統文化を大勢の方々の前で表現することを今回の学びのゴールとしました。まず、2学年の時から練習を

重ねた花笠踊りを東京の修学旅行においてお台場と上野恩賜公園で披露し、日本語・英語の手作りチラシも配布しながら観光客や外国の方々への町のPRを行いました。残る4つの伝統文化の継承にあたっては、東北文教大学の菊地和博先生をお迎えした伝統文化継承の意義を学ぶ講座から始まり、4つの伝承テーマ毎にお招きした先生方からお話をお聞きし、仲間と共有し深く理解し合いました。実際の文化継承学習は7回にわたり、毎回総勢20名の地域の先生方において頂き習得に努めました。継承した伝統文化は、朝日町とゆかりのあるアメリカコロラド州ウィンザー市の各訪問先や特別養護老人ホーム、学校の町の文化祭など多くの場所で披露することができ、朝日町の伝統を大切に受け



継ぎ、未来を考える貴重な経験ができました。

3) これからの活動に向けて

地域貢献として再度福祉施設への訪問を予定しており、今回の深い学びについては各自で文化伝承探究報告書を作成します。報告書の作成を通して、互いに振り返りを行い、各地域の先生方や地域に私たちの成果物をお渡ししたいと考えています。

遊佐町立 遊佐中学校

第1学年

代表 太田 敦仁 池田 紗良 阿部 太惺 島中 理紗子
本間 幹野 阿部 寧桜 齊藤 大夢 金山 千聖



発見!発信!遊佐町の魅力



1) テーマについて

遊佐町は豊かな自然環境に恵まれ、歴史ある観光名所が数多くあります。町内巡りをして遊佐町の魅力を再発見し、郷土愛を深めるとともに、その魅力を観光客の方々へ発信することを目的に活動を進めました。また、世界にも目を向け、難民問題に対して自分たちができることとして、子供服集めの活動にも力を入れています。

2) テーマに基づく活動について

毎年実施している宿泊研修の中で、「遊佐町の魅力を知る」をテーマに町内巡りを行い、それぞれの訪問地で町のボランティアガイド

の方々から説明を受け、たくさんの魅力に触れる活動を実施しました。研修後はおすすめスポットである丸池様・語り部の館・旧青山邸・十六羅漢岩・歴史民俗資料館などの魅力をまとめた「遊佐町パンフレット」を作成しました。その後、町主催のウォーキングイベント「奥の細道鳥海ソーデーマーチ」に参加し、その際、自作のパンフレットを県外からの参加者にプレゼントし、一緒に歩きながら自分たちが学んだ遊佐町の魅力を発信し、交流を図りました。また、今年度はユニクロ・GUが全国で展開している「子供服を集めて難民に送ろう」という「服のチカラプロジェクト」にも参加し、地域の方々の協力も得ながら、社会貢献活動へのやりがいも感じる事ができました。



3) これからの活動に向けて

町内巡りやソーデーマーチを通して、町の魅力を再発見・発信することの大切さを学び、子供服集めの活動を通して、社会貢献への意欲を育むことができました。再来年度の沖縄修学旅行においても、今回作成したパンフレットを用いて、遊佐町の魅力を発信する活動をしていきたいと考えています。

中山町立 長崎小学校



アイラブ中山 千葉大輔 渡邊光 高橋芽愛 澁谷美保
東優那 松田小英 柴田沙羅 村山結衣香

アイラブ中山

1) テーマについて

自分たちが生まれ育った町をもっと住みよい町、誇れる町、人が集う町にするためにはどうしたらよいかと考え、テーマ設定をしました。大好きなふるさとがますます愛しくなるように考え、創り上げようと活動をしています。

2) テーマに基づく活動について

平成29年度から活動を始め、学年全体でパンフレット・ポスター・ひまわりアーチ・本でPR・TVでPR・キャラクター・元祖芋煮会で花火・かまくら芋煮・流し芋煮・ひまわり染の10チームに分かれて活動を進めてきました。

中山町の花「ひまわり」の豆知識をまとめたポスターを制作し、羽前長崎駅とひまわり温泉「ゆらら」に掲示して頂いたり、町へ企画提案し動き出してくれたことで完成したひまわり迷路を地域の方々や観光客の方々にも楽しんで頂いたり、中山町を知ってもらいたい、楽しんでもらいたいという自分たちの思いを実現することができる活動がありました。しかしながら、元祖芋煮会の会場で花火を打ち上げたり、かまくらの中で芋煮を食べたりするアイデアを考えましたが、予算や制作の関係で子どもの私たちだけでは実施が難しいものもありました。そのようなときでも視点や方法を変えることで自分たちなりに工夫した提案もできるようになりました。



3) これからの活動に向けて

私たちの活動を、中山町長、町議会議員・役場の方々を前にタブレットや電子黒板・ポスターを利用してプレゼンテーションを行います。発表を通じて、自分たちの思いを多くの人に伝えられるよう活動していきます。



山形大学附属小学校

山寺みりよく発信チーム!山寺と羽黒山

小松平知里 齊藤圭祐 齋藤伶磨 穴戸葵 平吹春子

山寺のみ力を広めよう

1) テーマについて

総合的な学習の時間の中で、私たちは山居倉庫や羽黒山などがある庄内地域を訪れたり、自分たちが住む山形にある山寺が日本遺産に認定されていること学んだりしました。山形県の良さを発信していくために、山寺の魅力を羽黒山と比較しながら探究したいと考え、テーマ設定をしました。

2) テーマに基づく活動について

夏休み明けにクラスで山寺を訪れるにあたり、実際に地元の方からお話を聞きたいと考え、自分たちで「えんどう屋」さんへお願いのお電話をしました。ご夫婦で山寺生まれの遠

藤さんから、山寺の歴史についてお話を頂き、最近では外国人の観光客も増えており、英語のパンフレットを作成して工夫をしていることもお聞きしました。実際に私たちも台湾やドイツの方々とお会いし、外国人の多さを実感しました。また、自分たちも積極的に山寺へ来ていた観光客の方々へインタビューを行い、山寺のよかったところやこんなものがあつたらよいと思うものを調査しました。山寺を訪れた後、私たちは山寺と羽黒山を巡る旅行プランを考えました。車で山寺と羽黒山を回るプランでは1時間42分のコースになりましたが、電車やバスを使うと6時間を超える長旅になってしまうことがわかり、日帰りではなく宿泊してのプランも必要であることがわかりました。



3) これからの活動に向けて

自分たちで考えた旅行プランを地元の遠藤さんをはじめ、県・市・観光協会へ提案を行ったり、インドの小学校とのTV会議、リーフレットを作ったりすることで、自分たちの学びと山形の魅力を多くの方々へ発信していきたいと思っています。

朝日町立 大谷小学校



6年生 小嶋泰我 佐久間淳乃介 白田輝稀 白田玄
長岡珠璃 長岡翼 堀天時 五十嵐萌々花
佐久間陽菜乃 白田夏希 白田穂乃花

アサヒノヒカリ あさびーす大作戦

1) テーマについて

この町に生まれてよかった、来てよかった、行ってみたいという気持ちを表す「あさびーす」という言葉を作り、「朝日町の強みを引き出し、あさびーすを広げよう」を目標に活動することにしました。

2) テーマに基づく活動について

朝日町は自然豊かで地域の人同士の関わりも強く、他市町村に誇れる特産物も多くあります。しかし、このような良さよりも課題や弱みに目が行きがちで、住んでいる人が良さや強みを誇れていない現状にあります。そこで、私たちはゲストティーチャーをお招きし、

朝日町の光(強み)と陰(弱み)についてお話を聞き、町のために自分たちができることのアイディアを集めました。そこから、優先順位をつけて活動に取りかかり、役場の方やデザイナーの方に対し自分たちの活動がどのあさびーすに繋がるのかポスターセッションも行いました。そして、あさびーすを広げていくために、あさびーすポーズを考えたり、商店パンフレットやポスター、オリジナルキャラクターを制作したりしました。

また、地区の公民館長さんをお迎えし、地区民が昔のような賑わいを取り戻してほしいと感じていることも知りました。地区の伝統や文化・商店を守りながら未来に向けて自分たちができることを考えていきたいという気



持ちが高まるようになりました。

3) これからの活動に向けて

今後もあさびーすを広めていくために、地域の方々や仲間と協力して様々なアイディアや企画を実行していきたいと考えています。そして、活動を町内だけでなく、町外にも発信していきたいです。

総評

高等学校の部 総評



渡部 泰山 審査員

コンテストへの高校の部の応募は、全体で9校、22チームのエントリー数となり、内容も実に多彩なふるさと探究学習の実りの多い成果が報告されています。総合的な学習及び探究的学習の学びの延長線上に軸をおいた、国際問題、自然環境、農業問題、産直、地域づくり、特産物開発など幅広い分野にわたりました。最終審査にエントリーされたのは、4校でしたが、22チームいずれの探究活動もふるさとへの深い慈愛と誇りに満ちた姿、行動力が浮かび上がり、心温まる<未来>の在り方を示唆してくれました。「なぜ」「どうして」「こうしたら」が伸びやかに行き来する、探究的な高校生の学びの実相が鮮やかでした。

中学校の部 総評



沼野 慈 審査員

各校とも完成度が高く、的確なまとめ方や表現の仕方の工夫が見られ、質の高さを感じました。発表内容や視覚効果の工夫などに優れると同時に、独創性に満ち溢れていたからです。故郷の魅力や歴史文化をたぐり寄せていくさま、地域の課題解決に立ち向かおうとする姿を拝見し、ふるさと探究学習を通じ、一人ひとりが達成感や充実感に裏打ちされた自信に溢れ、しっかりと自己肯定感が育っていると実感いたしました。遊佐中学校はビデオ発表でしたが、本審査会場と同様に背景や生徒の発表の仕方に配慮されていました。どの取組みも郷土への理解度が深化し、今後に大きな可能性を感じさせるものでした。

小学校の部 総評



堀川 敬子 審査員

地域に密着した視点、実際に体験し人と会って話を聞く探究活動、そこからの気づきと今後の提案は、中学生・高校生に匹敵するほどの充実した内容であったと思います。ご家族や地域の方々の協力、そして先生方の高い指導力を伺いとれる素晴らしい内容ばかりでした。ITの進歩やAIの登場により、時代がこれまで以上に早いスピードで変化していきます。将来、その変化に適応しながら、何事も自分で考え自分で決めて自立した生活を営むために今の学びがあります。こういった貴重な経験を糧にして、地域社会の一員として活躍してくれることを期待しています。